

令和3年度 事業報告

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

令和3年度は、前年度からの新型コロナウイルス感染拡大という不測の事態に見舞われ、雇用情勢をはじめ国の社会経済活動は大きな打撃を受け、感染拡大の防止と経済の回復への道筋は、未だ不透明な状況となっています。当センターにおきましても、コロナ禍の影響により大きく落ち込んだ前年度と同様に契約額や会員数の減少がみられ、様々な事業についても、規模の縮小や開催の中止などの制約を受けました。また、昨年4月に「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正により、70歳までの就業確保が努力義務となるなど、制度的にも高齢者の就労・社会参加の促進が一層図られることとなりました。

こうした状況下にあつて、会員確保のキッカケとなります入会説明会の参加者が2ヶ月(8月、9月)なしとなりましたが、年間では前年度とほぼ同水準の52名でありました。また、70歳以上の会員が全体の80.5%を占め、会員の平均年齢は年々高まる傾向となりました。現在仕事はあるものの対応できる会員が見つからないといった状況も見られており、今後のシルバー人材センターの事業運営に影響がでることが懸念されています。

このようにシルバー人材センターを取り巻く環境が変化する中、本年度の請負・委任等の契約額は208,074千円、前年対比98.7%と減額となりました。また、会員数については、前述しました理由等も影響し、入会者が47名、退会者が73名となり、前年度末と比べ26名減の505名となりました。

こうした状況の中、令和3年度もこれまでの安全就業、就業態勢の強化、就業機会の開拓・拡大と共に福祉・家事援助サービス、子育て支援、介護保険サービスの推進を図り、活力ある地域づくりに貢献しました。

次に主な事業について報告します。

- 就業会員の増強、就業機会の開拓・拡大と就業率の向上に努める。
 - ✓ 会員の口コミ、市広報・カレンダー(10月、11月)、会報(8月、新年号)、ホームページ、マスメディア(6月、1月)等を活用し会員増強を図りました。
 - ✓ 市役所及び企業等の窓口にて、普及啓発ちらしの設置依頼を行いました。
 - ✓ グループ就業やローテーション就業により、ワークシェアリングを推進しました。
 - ✓ 毎月求人情報を提供し、就業機会の拡大を図りました。

- 普及啓発事業を推進する。
 - ✓ 会員相互の連携を深め、シルバー人材センターの普及啓発のため 10 月に計画していました全体奉仕作業及び県下一斉普及啓発 Day の実施につきまして、新型コロナウイルスの感染拡大により中止といたしました。
 - ✓ 市民及び会員を対象に、広域連携により 7 職種の参加型講習会を開催し、シルバーセンター事業の理解を深めました。
 - ✓ 交通安全早朝一斉街頭広報(年 4 回中 2 回実施、2 回中止)に参加しました。
 - ✓ 会報「シルバー伊豆の国市」の発行及び市カレンダー、ホームページ、配分金通知を活用し、会員及び市民への情報提供に努めました。
- 会員の就業意識、技能の習得を図る。
 - ✓ 伊豆市シルバー人材センターとの共同開催により、会員の技能習得を目的に「植木の剪定」「刈払機」「子育て支援」「清掃スタッフ補助」「事務系スタッフ補助」「木造住宅簡易鑑定士養成」「日常生活支援・福祉の仕事」の各講習会を計 17 日開催し、当市から 55 名が受講しました。
- 安全就業対策と健康管理に努める。
 - ✓ 年 4 回の大仁清掃センターでの安全運転注意喚起及び 7 月に運転適年齢診断研修、1 月に K(危険)Y(予測)T(トレーニング)研修を開催し車両事故発生の抑制を図りました。
 - ✓ 就業前の「KY チェックシート」の活用を図り、安全意識の高揚を図りました。
 - ✓ 安全・適正就業推進委員会の抜打ち安全パトロールを年 3 回実施し、会員の事故防止に向けた取組を行いました。
 - ✓ 会員に対し、市の健康診断受診を推進しました。
- 福祉・家事援助サービスを推進する。
 - ✓ 子育て支援や日常生活支援に関する技能講習会を開催し、女性会員の加入促進を図りました。
- 財政基盤の強化と事務局機能の効率化を推進する。
 - ✓ 就業機会の開拓・拡大を行い、受託収益の増加に努めました。
 - ✓ 一ヶ月変形労働職員会議を開催し、歳出抑制や事務の効率化に向けた協議を行い、経常経費等の削減に努めました。